

教員としての資質の向上に関する指標（0段階）

令和5年4月改訂

和歌山県教育委員会

「指標」は、キャリア段階等に応じて身に付けておくべき教員の資質・能力を示した「道しるべ」です。教員生活を続けていく上で、自身に必要な資質・能力を確認するとともに、次のステップへと進むための目標やヒントとして活用してください。

【指標の活用例】

- ① 自身のキャリア段階で身に付けておくべき資質・能力を確認し、その資質・能力が身に付いているかどうか判断する。
- ② (全て身に付いていると判断した場合) 次のキャリア段階で身に付ける資質・能力を今後の目標とし、更に実践を積んでいく。



キャリア段階
0 段階
養成期（着任時）
教員を志す者として大学卒業時に付けておくべき知識・技能について理解しようとする。

キャリア段階
1～4 段階

0段階は、大学卒業時の姿をイメージしています。教員を目指す大学生のみなさんには、教壇に立つ前に、ここに示す資質・能力が身に付くよう、日々学業に励んでいただきたいと思います。

初任者として採用されたみなさんは、この養成期の指標が「着任時の姿」となります。1～4段階のステップに向けて、教員としての資質・能力について今一度理解を深めておきましょう。



分野	資質・能力	
教育に関わる理念や理論	教職に就くために基盤となる知識理解	教職に就くために必要な基礎的知識と専門性を身に付けているとともに、現代の教育課題について把握し、その様々な解決方法や具体的な対応方法について理解している。
	目指す具体的な姿	<p>【例示】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育の理念・歴史・思想に関する基礎的知識を身に付けている。 教育の制度や法律に関する基礎的知識を身に付けている。 教科等に必要なる学問の基礎的知識を身に付けている。 子どもの発達に関する基礎的知識を身に付けている。 現代社会における教育的課題を理解している。 人権に深い理解をもち擁護している。

分野	資質・能力	
真理探究・自己実現	自律的学びの実践	「学び続ける教師」の礎として、学ぶことへの意欲・関心をもち、自らの成長のために様々な資源・情報等を得る手段や方法が身に付いている。
	目指す具体的な姿	<p>【例示】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師としての専門性を磨き続けようとする姿勢がある。 必要な情報を得る手段や方法を身に付けている。 社会情勢に関するニュース等に常に関心をもっている。 複数のデータや資料を分析し、論理的結論を導くことができる。 自分の行動について客観的に振り返る習慣がある。 社会や人と関わり合うことの大切さを理解している。

分野	資質・能力	
学校における教育実践の基礎	授業実践の基盤	授業計画や学習指導法の基礎・基本を理解し、それらを授業実践で生かそうと努めるとともに、よりよい授業を目指し、自らの授業実践力の向上を追究していく態度が身に付いている。
	目指す具体的な姿	<p>【例示】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習環境や学習規律の大切さを理解している。 教科書教材などの教材研究を行い、授業の準備ができる。 本時の目標を意識し、授業展開を考え、学習指導案を書くことができる。 指示や説明が明確であることに努め、また発問では子どもの学びを促すよう努めている。 子どもの取り組む姿を積極的に評価することや授業実践の省察の大切さを理解している。 ICTを用いた指導法についての基礎的知識を獲得している。
	子ども理解・支援の基盤	子どもたちの個性を尊重しながら個に関わる実践的指導方法や子ども集団に適切に関わる技能の基礎的知識を獲得しているとともに、特別な配慮や支援を必要とする子どもへの配慮事項等についての基本的知識を理解している。
	目指す具体的な姿	<p>【例示】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもを大切にできる態度が身に付いている。 子どもの話や意見を積極的に聞き、どの子どもにも公平に対応する姿勢が身に付いている。 子どもの姿や活動の様子を見守り、子ども同士の関わり合いを促すことができる。 学級経営等での集団づくりの大切さを理解し、その基礎的知識をもち、実践で生かすよう努めている。 特別支援教育についての基礎的知識をもち、支援に生かすように努めている。 生徒指導・教育相談についての基礎的知識をもち、指導や支援に生かすように努めている。
学校における教育実践への参加と理解	学校における教育実践への参加と理解	社会人としての身だしなみや態度を身に付けているとともに、教員としての役割等を自覚し、責任ある行動をとることができる。
	目指す具体的な姿	<p>【例示】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員であることを常に意識した身なりや言葉遣い、行動ができる。 学校の一日の流れを理解し行動することができる。 教員の職務を理解し行動することができる。 校務分掌について、その役割を理解している。 職務遂行のために教職員と連携・協力することの重要性を理解している。 報告・連絡・相談・確認を実行する態度が身に付いている。

資質・能力	
学習指導	授業構成・評価計画 Plan
	学習指導・評価技術 Do
	授業研究・授業改善 Check Action
生徒指導	個に対する支援
	集団に対する支援
特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応	社会的資質・能力の発達の支援
	障害特性に応じた指導・支援
ICTや情報・教育データの活用	インクルーシブ教育システム構築の推進
	ICTを活用した教育の充実と改善
教職に必要な素養	教育データの活用による効果的な指導の実践
	学級経営・学校運営
	学校組織の一員としての行動
	保護者・地域等との連携・協働
自己実現のための省察	危機管理・危機対応
	自己実現のための省察

教員としての資質の向上に関する指標（1～4段階）

令和5年4月改訂
和歌山県教育委員会

和歌山県が目指す教員育成
(学び続ける教員像の確立)

- 若手教員の力量向上のための校内研修の仕組みをつくり、自らも学び続けながら学校全体の教育力を高めようとする教員
- 同僚性・協働性を基盤とし、しなやかに創造的な「チーム学校」をつくらうとする教員
 - * 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力（使命感や責任感、教育的愛情）
 - * 専門職としての高度な知識・技能
 - * 総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）

* 校内とは、幼稚園内・認定こども園内・保育所内を含む。

キャリア段階		1段階	2段階	3段階	4段階
		基礎形成期 (目安：1年目～3年目)	伸長期 (目安：4年目～10年目)	充実期 (目安：11年目～20年目)	貢献期 (目安：21年目以降)
資質・能力		教壇に立つ者として身に付けておくべき、教職の基礎・基本を実践しようとする。	教育実践に努め、教職に係る基礎的能力を伸ばそうとする。	教員集団のリーダーとして、自身の専門性を更に向上させようとする。	これまでの経験を生かし、幅広い視野をもって学校運営及び教員の指導に関わろうとする。
学習指導	授業構成・評価計画 Plan	本時のねらいに応じたためあての設定やまとめを考え、本時の保育、授業計画を立てようとするとともに、先輩教員の助言を得ながら単元計画や評価計画を立てることができる。	教材や教具、環境構成を工夫しながら、こどもの実態を踏まえた本時の保育、授業計画を立てるとともに、付けたい力を明確にし、見直しをもって単元計画や評価計画を立てることができる。	カリキュラム・マネジメントに基づき、指導と評価が一体化された保育、授業計画を立てるとともに、学年や単元間の系統性を意識し、ねらいに沿った単元計画や評価計画を立てることができる。また、同僚や若手教員が作成した単元計画や評価計画についての確に指導・助言を行うとともに、改善に係る具体的な代替案を示すことができる。	
	学習指導・評価技術 Do	こどもの発言や机間指導により、こどもの反応や理解を確かめながら保育、授業を行うとともに、こどもの理解度を、設定した場面・評価規準により評価・支援することができる。	こどものつぶやきや反応に適切に対応しながら、保育、授業を行うとともに、学習状況に応じて、こどもに適切な評価・支援を行うことができる。	保育、授業中に、こども一人一人の理解度を発言や机間指導により把握し、こどもの理解度に応じた効果的な指導ができる。また、こどもの学習状況に応じて適切に評価・支援を行い、それらの見取りを、次時以降の保育、学習指導計画の修正に生かすことができる。	
	授業研究・授業改善 Check Action	日々の保育、授業実践を振り返り、自身の課題を把握・分析し、改善することができる。	進んで研究保育、研究授業等を行い、保育、授業実践の積み上げを図りながら、多様な指導方法を探究することができる。	自ら学び続けるという意識をもち、自身の保育、授業実践を積み上げるとともに、同僚や若手教員の授業力向上のため、適切な助言を行うことができる。	常に指導法研究や自身の資質向上のために学び続け、若手教員の保育、授業力向上や所属校の教育目標達成に貢献することができる。
生徒指導	個に対する支援	こどもの内面を共感的に理解し、校内組織等の助言を得ながら、適切な指導・援助ができる。	こどもの生育歴等の背景を理解し、校内組織等と連携・協働しながら、適切な指導・援助ができる。	こどもの自己指導能力の育成を図るための積極的な生徒指導について、様々な関係機関等と連携・協働して環境を整備することができる。また、管理職の方針のもと、チーム学校による生徒指導体制においてリーダーシップを発揮することができる。	
	集団に対する支援	こどもは集団の中で育つことを理解し、校内組織等の助言を得ながら、規律のある望ましい集団づくりを行うことができる。	こども同士が高め合おうとする集団づくりについて、校内組織等と連携しながら、適切な指導・援助ができる。		
	社会的資質・能力の発達の支援	社会と関わろうとする意欲や態度の育成について、校内組織等の助言を得ながら、適切な指導・援助ができる。	社会に貢献しようとする意欲や態度の育成について、校内組織等と連携しながら、適切な指導・援助ができる。		
特別な配慮や支援を必要とするこどもへの対応	障害特性に応じた指導・支援	特別な配慮や支援を必要とするこどもの発達段階や特性を理解し、関係職員等との連携により、学習上・生活上の支援の工夫を行うことができる。	特別な配慮や支援を必要とするこどもへのよりよい指導・支援を行うことのできる知識や支援方法を身に付け、組織的に対応することができる。	特別な配慮や支援を必要とするこどもの学習上・生活上の支援について、関係機関等と連携して取り組む校内の体制を推進することができる。	特別な配慮や支援を必要とするこどもに対する校内組織を多面的に支え、関係機関等との連携に基づく組織的な取組を力強く推進することができる。
	インクルーシブ教育システム構築の推進	インクルーシブ教育に関わる基本理念について理解し、合理的配慮を踏まえた個に応じた指導・支援及び学級経営等ができる。		合理的配慮の観点を踏まえた学級経営等を行うとともに、学校全体で連携した指導・支援を推進することができる。	合理的配慮の観点を踏まえ、学校全体の教育環境の改善に向けて助言することができる。
ICTや情報・教育データの利活用	ICTを活用した教育の充実と改善	学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等に積極的に取り入れることができる。	授業や校務等にICTを効果的に活用するとともに、こどもの情報活用能力（情報モラルを含む。）の育成に向けた授業実践を行うことができる。	こどもの情報活用能力（情報モラルを含む。）の育成や校務の情報化を、より効果的に行うための校内研究を推進することができる。	ICTを効果的に活用するための校内組織の整備や、こどもの情報活用能力の育成を体系的に行うためのカリキュラム・マネジメントの実現を図ることができる。
	教育データの利活用による効果的な指導の実践	教育データを適切に活用することの意義と効果を理解し、個別最適で効果的な学びや支援において適切に活用することができる。	個々のこどもに応じた学習指導と生徒指導等の改善のため、教育データを適切に活用するとともに、効果的な指導等の改善に向けてデータ活用の提案ができる。	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や、経験の共有と新たな知見の生成のため、教育データを適切かつ効果的・具体的に活用することができる。	教育データの利活用に係る校内組織の整備を図るとともに、授業改善や効果的な指導・支援を充実させるため、利活用に関する評価・改善を行うことができる。
教職に必要な素養	学級経営・学校運営	学級担任の役割と職務内容及び学校、組織、校務分掌等について理解し、自分の役割を遂行することができる。	学校教育目標を理解し、学級経営や校務分掌等の様々な教育活動における役割を円滑に進めることができる。	学校教育目標を達成するため、校内組織等と連携しながら、教育活動を工夫改善することができる。	学校教育目標を達成するため、学校運営の持続的な改善を支え、教育活動の効果を高めるための指導・助言ができる。
	学校組織の一員としての行動	学校及び教職の意義を理解し、組織の一員として行動することができる。	学校の社会的役割を理解し、組織の一員として、自身の意見を効果的に伝えるなど積極的に参画することができる。	自身や学校の強み・弱みを理解し、学校組織をつなぐ中核として、課題解決に向けて行動することができる。	学校組織マネジメントの意義を理解し、自校の特性を見極め、課題への対応力を高めるよう指導・助言ができる。
	保護者・地域等との連携・協働	保護者や地域等と積極的に関わり、協力を得ながら教育活動を行うことができる。	保護者や地域等との関わりを深め、連携・協働による教育活動を行うことができる。	保護者や地域等とのネットワークを構築し、連携・協働による教育活動の効果を高めることができる。	保護者や地域等とのネットワークを有効に活用して教育活動を行い、かつ同僚への指導・助言ができる。
	危機管理・危機対応	危機管理の重要性を理解し、学級等の安全管理ができる。	様々な教育活動での危機について理解し、課題に応じて環境を整備することができる。	様々な教育活動での危機を予測し、未然防止や早期発見、早期対応に努めることができる。	関係機関等との連携・協働を通して、危機管理体制等を見直すなど、組織的な取組を推進し、かつ同僚への指導・助言ができる。
	自己実現のための省察	教育活動における自身の取組を振り返るとともに、指導・助言を得ながら工夫改善を行うことができる。	教育活動及び校務分掌における自身の取組を、多角的な視点から振り返るとともに、指導・助言を踏まえ工夫改善に生かすことができる。	教育活動及び校務分掌における自身の取組を、学校教育目標と関連付けて振り返るとともに、工夫改善を学校課題の解決につなげることができる。また、積極的な指導・助言を通して、同僚の省察を支援することができる。	